

令和2年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和元年度事業)

令和2年9月
日野市郷土資料館

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	郷土資料館の現状	1
	（1）組織と職員	
	（2）主な業務	
4	評価の実施方法	1
5	評価の対象	2
6	評価の結果	2
	事業別 郷土資料館の運営状況の評価表	4～16

参考資料

I	令和元年度 日野市郷土資料館の活動状況	17～29
II	日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	30
III	第7期および第7期日野市郷土資料館協議会委員名簿	31

1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

組織：1 係〔資料館係〕

職員：5 人〔館長 1、係長 1、主査 1（学芸員）、主任 1（学芸員）、用務主事 1〕

会計年度任用職員：4 人〔学芸員 3〕

(2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年 1 回、郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教

育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

5 評価の対象

令和元年度の評価対象は、次の 11 事業について行うこととしました。

- No.1 郷土資料館協議会の開催
- No.2 学校教育との連携事業
- No.3 企画展開催事業
- No.4 特別展「豊田のむかし」の開催事業
- No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業
- No.6 文化財緊急調査事業
- No.7 真慈悲寺調査事業
- No.8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業
- No.9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.10 たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業
- No.11 資料館講座・体験学習事業

6 評価の結果

<<郷土資料館協議会の評価>>

令和 2 年度「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の項目別概要は次の通りです。

No.1「郷土資料館協議会の開催」は、いろいろな立場の委員がいる、メンバーの多様性や個性が楽しみ、という意見、社会教育関係と共に会を持つ必要があるという意見もあり、充実している部分と、必ずしもそうではない部分を感じているようです。

No.2「学校教育との連携事業」は、毎年、委員の関心の高い事業です。今年度は、小学校の新学習指導要領に対応したパッケージ作り、中学生の郷土資料館利用の促進、実物・実体験だからこそ伝わる感動の提供を求める意見がありました。

No.3「企画展開催事業」は、「ひの宝モノ語り展」の展示が高評価を得、YouTube での発信に興味がある、という意見がありました。

No.4「特別展「豊田のむかし」の開催事業」は、地域に重点を置くことでの盛り上がり、住民の興味・関心を高め、住民との協力・連携できたことが大きな成果、と高評価を得ました。他地域も検討してほしいという意見がありました。

No.5「古文書等歴史資料の調査・整理事業およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業」は、代替わりなどで古文書などの歴史的な価値がわからず、貴重な資料が散逸、滅失してしまうことの懸念が多く出されました。また、資料の収集、時間のかかる調査・整理・解読のため、市民の理解を得ること、業者委託や専門の学芸員の増員が必要、という意見がありました。

No.6「文化財緊急調査事業」は、緊急調査が果たす役割は重要とされ、市民への調査していることの報告・啓発が必要という意見がありました。

No.7「真慈悲寺調査事業」は、京王百草園内に設置した QR コードでの解説が高評価を得、充実が求められています。大学との連携という意見がありました。

No.8「勝五郎生れ変わり物語」の調査と発信事業」は、調査団の活動が高評価を得る一方、メンバーの若返りのため、大学へのアプローチを求める意見がありました。

No.9「七生丘陵の自然と歴史調査事業」は、調査団の活動紹介が必要、という意見から、七生丘陵ハイキングコースの市民への紹介、解説版やトイレの整備を求める意見がありました。

No.10「たきびの詩人「巽聖歌」啓発事業」は、資料集の刊行が高評価を得ましたが、日野市として巽聖歌の資料をどうしていくのかを問う意見がありました。

No.11「資料館講座・体験学習事業」は、冊子「歩こう、調べよう、ふるさと七生」関連の、生涯学習課、公民館、図書館、新選組のふるさと歴史館と協働で行った現地講座が高評価をいただきました。

<<郷土資料館の自己評価>>

協議会の郷土資料館への評価は概ね好評でしたが、昨年度に引き続き、事業の取組及びその成果の周知に関する課題が挙げられました。郷土資料館からの発信について工夫していききたいと思います。令和2年3月ごろから新型コロナウイルス感染拡大防止の対応を迫られてきました。郷土資料館で行っている、展示、講座、街歩き等のイベントなども今までのやり方では立ち行かなくなっています。YouTube での動画配信や QR コードによる解説など、ICT を活用し今までのやり方ではない形を模索し、実践していきたいと思います。このような手法は、感染防止策が不要になった「コロナ後」にも有効だと考えます。日野の児童・生徒や、市民の暮らしの中に「ふるさと日野」の情報を届けていきたいと思います。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、4 ページ以降の評価表のとおりです。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 1 郷土資料館協議会の開催
事業の概要 <ul style="list-style-type: none">・日野市郷土資料館協議会は、博物館法および日野市郷土資料館条例により位置づけられている。郷土資料館の運営に関して、館長の諮問に応じ、館長に対して意見を述べる機関。学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに学識経験者、公募市民の10人で構成されており、年3回の会議を開催して意見を求めた。・資料館は、毎年資料館協議会の意見をもとに、事業評価を行っている。	
事業の成果 <ul style="list-style-type: none">・協議会で定めた資料寄贈寄託などの手順をもとに、資料受入等の手続きを実施し、状況報告を行いながら事例を積み立てた。・当館の運営状況の評価について意見を求め、結果は教育委員会に提出した後、市民に公表した。・委員の協力をいただき、地域との繋がりを築くことができた。・委員の意見を、展示・講座などの事業や業務改善に生かすことができた。・委員を通して、他館の事例、学校教育現場の現状、市民の声を聞くことができた。	
協議会の意見 <ul style="list-style-type: none">・前年度までの成果を引き継ぎながら、新たな発想や意見を忌憚なく出し合い、円滑で創造的な郷土資料館事業を推進する。評価され生かせるものは、即生かしていきたい。・社会教育・学校教育・地域教育の研究者・市民といったいろいろな立場の人がいることで気づくことがあるので、自分だけの世界だけでなく、多角的に郷土資料館をめぐる様々な問題を議論できる協議会の存在意義がある。メンバーの多様性や個性は楽しみである。・学校代表委員の背後には、教諭の研究会があり、社会科部では「わたしたちの日野市」の改訂が終わり次年度の使用に向かっている。そういったつながりをこの場にフィードバックしたい。・社会教育関係と、時には共に会をもつのが必要なことがあるかもしれない。・感染症対策が長引くときは、協議会運営のあり方・内容を検討する必要がある。	
課題と改善策 <ul style="list-style-type: none">・寄贈寄託などの手続きや収蔵場所不足の問題は、資料館の重要課題であり、問題・課題点は精査して協議会へ報告して意見を求める。・会議だけでなく、委員との情報交換など郷土資料館とのつながりを生かしていきたい。・令和元年度は、年3回の会議を開催できたが、今後感染症対策などで対面会議が困難な場合には、リモート会議も想定する必要がある。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 2 学校教育との連携事業
事業の概要 <ul style="list-style-type: none">・市内の文化財を活用し、小中学校と幼稚園、保育園などを対象とした文化財の啓発事業を展開する。・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校などの要望を取り入れた内容で行う。・授業で使う資料の相談を受けて資料提供を行い、見学場所や人材紹介などを行う。・当館で蓄積した画像データなどを、学校に提供して ICT 教育の教材として活用をはかる。・学校教育との連携について、校務支援システムの掲示板機能を用いた情報発信と記録作成をはかる。	
事業の成果 <p>〈小学校の学習利用〉</p> <ul style="list-style-type: none">・3年社会科見学及び出張授業(17校)、社会「大昔の暮らし(火起こし体験・土器)」出張(2校)、地形と防災(2校)、特別展「豊田のむかし」見学(4校)といった多様な利用がみられた。・校務支援システムの掲示板に、実施内容がわかる簡易な写真入の報告書を1ページにまとめ発信している。これにより、学校内の申し送りや利用時の参考となるだけでなく当館の記録作成も兼ねている。・近年の学校ごとの対応記録をまとめた。各対応に要する人員や方法についても写真付で記録し、一つの指針としてのマニュアル作成を行った。 <p>〈中学校などの学習利用〉</p> <ul style="list-style-type: none">・職場体験(2校)、地域学習(4校)、青梅市と羽村市からの校外学習(2校)の利用があった。・わかば教室では「蚕の飼育観察と糸取り」や「平山陸稲の観察と脱穀および試食」を行った。	

協議会の意見

- ・郷土資料館の利用が一つのパッケージとなっていると、それを目当てに来館できる。
- ・新学習指導要領により、昔の暮らしの単元の扱いが変更となった。小教研の社会科部のメンバーとやりとりして、新学習指導要領に対応したパッケージづくりをお願いしたい。
- ・中学校が気軽に使えたらよい。
- ・青梅市と羽村市の中学校が校外学習で来館した。真慈悲寺は、仏教史や政治史に関わるので、学習の題材にならないか。中学生の資料館利用のために、両方の歩み寄りが必要ではないか。
- ・日野市の第3次学校教育基本構想により、一律一斉の教育から各自が課題をみつけて深める学びを重視するようになってきている。中学生の新たな課題設定に郷土資料館が答えていくことがとても大事なのではないか。中学生が質問したり調べたりできるような体制を整え、発信することが、これからの学びに必要。
- ・遠方に行けないこの時期、秋の遠足で七生丘陵など市内のコースを紹介してできたらどうか。郷土資料館や博物館はそのような情報の宝庫である。
- ・日野市内でも、日野側や浅川近くでは、景色や地形、暮らしや歴史の違いがある。同じ日野での違いを提示して、子どもたちが少しでも関心をもってもらえないか。徒歩やモノレール乗車でまわってみることもできる。
- ・調布市の例で、積極的な中学校の先生の希望で、郷土・歴史の部屋を校内に作った。各中学校に歴史の部屋をつくって小学校が来る。学校の事情や部屋の変更、お互いが遠慮してしまうなど困難もあった。先生と学芸員の説明の役割分担や公開の方法を考える必要がある。
- ・子どもが興味をもつのは、昔の道具を使って体験した臨場感。現在は簡単なことを、昔はどのように煮炊をし、収穫をしたのかと臨場感をもって感じた時に、「へえーそれは大変だったすごいね、だからこそ力を合わせていた」と納得できるところまでもっていかないと、子どもには入っていけない。先生との事前打合せがとても大切。郷土資料館の学芸員はそこまで理解し、伝えること。
- ・指紋のついた土器を西平山の遺跡見学で見た時に、製作者はどんな人でどんな暮らしだったのだろう、と心が揺さぶられる感じがした。実物とか実際の体験から生じる感動が大切。学校側も学芸員も子どもに伝えるように。
- ・新型コロナウイルス予防のため、オンラインを用いているが、実物を見て触って、感動することがないと、その歴史・民俗・自然は本当に伝わらない。新しい生活様式に合わせる必要はあるが、早く元に戻って実物の感動のある体験の提供ができよう、収束することを望む。
- ・学校との連携を重視する。見学や出張授業の時は、必ず事前に担当教員と十分に打ち合わせる。当日の流れ、教員との役割分担、事前指導について共通理解を深める。そのためにも、新学習指導要領（社会科、理科、生活科、総合的な学習の時間等）に目を通しておく。

課題と改善策

- ・中学校への働きかけが不足している。中学校の多様な資料館活用の可能性を探るために、校務支援システムや、協議会委員や郷土教育推進研究委員会などを通して、中学校の現状を把握するとともに、中学校の学習課程をふまえた資料館からのPRを行っていく。
- ・実物を用いた体験の大切さを重視し、子どもたちに感動を伝える。
- ・新しい指導要領に対応した授業内容の開発（教員との協働作業）に積極的にかかわっていく。
- ・郷土教育推進研究委員会を通して、郷土資料館からの学校への情報の発信や学校からの情報を受け取り、連携を強化する。
- ・短時間でも小学校の教員が取り入れたいと思う郷土資料館活用メニュー作りを進めていきたい。
- ・見学や出張授業などの際には、学校との連携を密にして、共通理解したうえで効果的にすすめる。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 3 企画展開催事業
事業の概要 郷土資料館企画展（3回） 「四季の植物」（4月20日～7月7日） 「どっき土器展 2019 大昔の多摩平」（7月13日～11月10日） 「ひの宝モノ語り展～くらしの工夫に光をあてる～」(11月16日～4月12日) どっき土器展に関連体験学習会：「マイ勾玉を作ろう！」(22名参加) パネル展（4回） 春季「富士山と日野」、夏季「明日に伝える戦争体験」、秋季「百草倉沢地区の歴史を楽しむ」、 冬季「日野市内のサイノカミ・どんど焼き」 ※「ひの宝モノ語り展」に併せて2月末に開催予定だった「みんなであそぼう！ジュズダマお手玉&竹とんぼ」は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。また3月4日から5月末までは、臨時休館となった。	
事業の成果 ・企画展及びパネル展の観覧者数 1,363 人だった。 ・パネル展示は、終戦記念日や真慈悲寺現地イベント、どんど焼き等に合わせて開催している。 ・サイノカミ・どんど焼き研究会の調査成果を、どんど焼きパネル展で展示することができた。 なお、臨時休館中は、企画展示室の壁面のペンキ塗装や入口の看板設置を行い、展示室の改善を行うことができた。	
協議会の意見 ・以前、高幡不動駅通路のパネル展は好評であった。郷土資料館の魅力の発信やPRの為にも続けてほしい。日野駅や他の駅についても検討してほしい。「ひの宝モノ語り展」は、スペースの使い方や解説の仕方の工夫が素晴らしく、ゆったり見られて分かりやすかった。今後も是非、継続してほしい。 ・YouTubeでの発信には興味がある。	
課題と改善策 ・新型コロナウイルス感染症対策のための、外出自粛を機会に、画像や動画配信などIT技術を生かした情報発信を進める必要があると痛感した。日野市郷土資料館の魅力を柔軟に発信していきたい。 ・今後も日野市の歴史・文化・自然に係る調査を進めていき、そこから地域を物語る事項を抽出して企画展として発信していきたい。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 4 特別展「豊田のむかし」の開催事業
事業の概要	<p>・新選組のふるさと歴史館を会場にして特別展「豊田のむかし」を開催した（10月5日～12月8日）。本展示は、平成27年度から郷土資料館で実施してきた豊田村旧名家文書調査の成果を公開して市民と共有することで、まちづくり活動を支援することを目的とする。また、豊田地区は近年、区画整理やバイパス工事などで大きな変化を遂げており、歴史を掘り起こし記録していくことが急務であることから、旧名家の調査以外も含む幅広い内容を目指した。</p>
事業の成果	<p>・59日間の会期中、延べ4,452人（1日あたり平均75人）の来館者があった。来館者のアンケートの結果などはおおむね好評であり、中には何度も展示を見に来るリピーターもいた。特に、戦前のフィルムを修復して会場で上映したところ、大変好評であった。また、豊田小学校を含む市立小学校4校が特別展を見学した。</p> <p>・会期中に関連事業として、講演会2回と見学会1回を開催した。牛米努氏による講演会「草創期の地方ビールと山口麦酒」は台風19号により開催日と会場の変更を余儀なくされたが34人が参加した。今尾恵介氏による講演会「豊田の地形と地名」は、70人の参加があった。また、見学会「豊田の七森を探る」は、「七森」と呼ばれる神社やその跡地を約3時間かけて巡るもので26人が参加した。</p> <p>・平成30年度に、写真パネル展「ガラス乾板からよみがえる100年前の豊田の風景」を豊田地区で開催したことで、地域の歴史に対する住民の関心が高まっており、資料の提供やチラシの配布などで多くの方にご協力をいただくことができた。</p>
協議会の意見	<p>・地域の学校に出張展示して、地域の方が何回も見に来るなど、地域に重点をおくことで盛り上がった。今後も郷土資料館が出向いて地域や学校と共に取り組むように。</p> <p>・2年連続で「豊田」を取り上げ、住民の興味・関心を高め、住民との協力・連携関係ができたことは大きな成果である。この郷土資料館と市民との関係は、今後の郷土資料館のあり方と考える。地域の学校、地域の公共施設での展示を今後も実施してほしい。講演会、地域巡検等とセットで、「平山」「百草」「東光寺」「旭が丘」等の他地域も検討してほしい。地域住民と映像を見ながらの懇親会も企画できないか。</p>
課題と改善策	<p>・展示終了後、資料についての相談を受ける機会が増えた。旧名家の調査のほかにも、改築予定の豊田小学校から資料を預かるなど、豊田地区の資料調査を継続している。今後も住民と良好な関係を築きながら調査を継続していきたい。</p> <p>・調査で明らかになったことを報告書や資料集としてまとめ、刊行したい。</p> <p>・講演会は電話での事前申込制で、今尾氏の講演会に申込が殺到してたちまち定員に達した。多くの方をお断りせざるを得なかったにも拘わらず、当日無断で欠席する人が多く、大変残念であった。資料館では例のないことであり、有名な講師の場合の申込方法の見直しや、申込キャンセルの連絡の徹底をお願いする等の対策を講じるようにしたい。</p>

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目

No.5 古文書等歴史資料の調査・整理事業 およびマイクロフィルムデジタルデータ化事業

事業の概要

＜古文書等歴史資料の調査・整理事業＞

- ・市内の古文書の整理、目録作成、補修、撮影を行ない、保存のための手段を講じる。
- ・古文書を解読して、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。
- ・古文書を利用した講座や見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広める。
- ・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。

＜マイクロフィルムデジタルデータ化事業＞

- ・郷土資料館では、市史編さん事業等で古文書等歴史資料を撮影したマイクロフィルムを保管しており、その数は、35mmフィルム358巻と、16mmフィルム64巻である（16mmフィルムは35mmフィルムの倍のコマ数がある）。最初の撮影から約50年近くが経過し、マイクロフィルムの劣化が進んでいるので、貴重なデータが失われる前にデジタルデータに変換して、保存と利活用をはかることを目的とする。同時に目録も合わせて電子化することで、パソコンを使った画像検索を可能にするものである。

事業の成果

＜古文書等歴史資料の調査・整理事業＞

- ・特別展「豊田のむかし」に関連して、豊田地区の古文書、歴史資料、古写真等の資料の収集、調査、整理を行なった。
- ・南平T家文書の整理。市史編さん・ふるさと博物館での調査時に漏れていた資料を新選組のふるさと歴史館が古書店から購入し、その資料整理を行なった。16回実施し、日野の古文書を読む会研究部会のボランティア延べ98人が参加した。
- ・日野の古文書を読む会研究部会による古文書の解読を38回行い、ボランティア延べ428人の参加があった。また、編集会議を17回行い、ボランティア延べ51人の参加があった。
- ・日野本町H家文書、東光寺T家文書、川辺堀之内M家文書、新井H家文書などにつき、市史編さん時以降の追加資料の整理、目録作成を行ない、マイクロフィルム未撮影の資料の撮影、および追加資料の撮影を実施した。
- ・特別展「豊田のむかし」に関連し、恒例の初心者向け古文書講座「豊田の古文書を読んでみよう」を2月に開催した。全6回の開講予定が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため後半3回は中止となり、3回で延べ79人の参加者があった。
- ・平成29・30年度に続き、虫損の被害が甚大な貴重資料「平山村田畑反別其外取調野帳」の裏打ち修復を委託にて実施した。前年度までの分と合わせて125丁分の裏打ちを終えた。令和2年度に完了する予定である。
- ・古文書等歴史資料整理編集委員会を6・10月の2回開催した。（残り1回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

＜マイクロフィルムデジタルデータ化事業＞

- ・令和元年度は、16mmフィルム24巻（約35,000コマ相当）をデジタルデータ化し、あわせて電子検索性目録を作成した。すでに平成19年度の事業開始から平成30年度までに、35mmフィルム358巻のデータ化は完了し、画像検索が可能となっている。残るは16mmフィルム35巻分となっている。なお、令和元年度は検索システムの移行期にあたるため、デジタルデータへの変換と検索性目録の入力のみを実施した。
- ・データ化された資料は、展示のための資料選択や講座の教材として使用したほか、市民や他の博物館からの問合せへの回答等に利用された。郷土資料館が事業を行うにあたって、デジタルデータの保存と活用は不可欠である。

協議会の意見

- ・デジタルデータの運用については、知恵をだして対応していただきたい。
- ・古文書の研究会の活動で日野市史を語る上でも貴重な日記を読んでいる。家の人が蔵に手をつけず、古文書の歴史的な価値が分からないことが心配。所蔵者が安心して資料を見せてくれるように郷土資料館から積極的に働きかけては。
- ・過去に調査を実施し所蔵者に返却したものが、代替わりがあって家の人がわからなくなることがある。
- ・「広報ひの」などで広く多くの市民に知らせておくと、蔵を壊す機会などに自宅のものが貴重な資料になることが伝わり、資料館への連絡につながるのではないか。
- ・資料受入れの際には、収蔵品の状況に合わせて判断が必要となる。例えば、寄贈希望者は博物館での収蔵を望んでいても、同じ資料が複数あることもある。
- ・地道ではあるが、デジタルデータ化作業が進展し、展示や講座に活用できたことはよかった。また、今後さらに多くの古文書の発見が予想され、調査・整理・解読に膨大な時間を要するであろう。市民への理解と協力を得ることと、業者委託や専門の学芸員の増員が必要と考える。

課題と改善策

<古文書等歴史資料の調査・整理事業>

- ・調査で明らかになった資料の内容について、資料集や報告書の形で刊行していく。いずれ『新・日野市史』が刊行される際には、基礎資料となるように、しっかりとした調査を続けたい。特に資料の撮影は量が膨大で時間がかかるものだが、着実に進めたい。
- ・今後も、他部署や市民と連携をとりながら、区画整理や住宅の建て替えなどで散逸が心配される古文書を緊急に保護できるようにする。資料保存の大切さを訴えるとともに、古文書の調査や整理は、経験のある人材や資料の保管場所を必要とするものであることを、多くの市民に理解してもらえるような活動をしていく。
- ・資料の受入れ募集について一律に広報してしまうと、収納場所や整理作業の人員などといった、受け入れる側の都合もあり難しい。個別に資料や相手方の状況に応じて着実に進めていきたい。

<マイクロフィルムデジタルデータ化事業>

- ・当館で使用している検索システムは Windows7 対応だが、Windows10 への移行が出来なかったことから、今後の新しい検索システムの構築について昨年度から検討を始めた。今後導入される新しい検索システムは、古文書を撮影したマイクロフィルムからの変換データだけでなく、資料館で取り扱う資料全体の管理台帳を兼ねたシステムとして運用できるよう、検討を進めていく。
- ・残り 35 巻の 16mm フィルムについても、フィルムの状態が少しでも良い内にデジタルデータ化が完了するよう努める。
- ・これまで運用していた検索システムで見つかったデータの不備や不具合について、新システム導入時には改善する必要があるため、問題の洗い出しのためのチェックや修正の作業をする時間や人員を必要とする。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 6 文化財緊急調査事業
事業の概要 <ul style="list-style-type: none">・代替わりや区画整理等の理由で処分される建造物または蔵等に収蔵されているものについて、専門家と連携して調査を行い、地域を語る資料の記録保存を行う。	
事業の成果 <ul style="list-style-type: none">・日野本町日野家の古文書記録撮影調査、東京オリンピック関連地図の記録撮影調査、飯綱権現の整備に伴う現況記録保存調査を行った。・緊急性の高いものや、借用資料の記録保存撮影をすることができた。・当館職員ならびに専門カメラマンによる写真撮影、建築関係の専門家による図面取りを行うことができた。・平成 30 年 2 月から実施した緊急調査をまとめ、『日野市西平山高橋家旧撚糸工場調査報告書』として刊行した。	
協議会の意見 <ul style="list-style-type: none">・予定できない緊急調査が果たす役割は重要である。・より多くの市民への周知がとても大切で、冊子刊行もありがたいが、調査していることも随時 HP などを使って周知しては。・「西平山高橋家旧撚糸工場」「飯綱権現の整備」等、専門家と連携して緊急調査をし、記録保存ができた。専門家との連携・協力関係は、重要で、予算の増額は必要である。今後、どうしても保存できないものは、確実に記録保存する。そして、HP・広報・ミニ展示等で市民へ報告・啓発に努める。	
課題と改善策 <ul style="list-style-type: none">・緊急性が高いため、予算化されにくい無形・有形の文化財を記録保存するための事業として非常に有効。・予算に限りがあるため、専門家への謝礼を抑えなければならず、心苦しい思いをしている。更なる予算の獲得が必要である。・常にアンテナを張り、情報収集に努め、速やかな行動を行う必要がある。・収集後の速やかな記録及び保存を心がけ、資料の散逸を防ぎながら、収蔵する必要がある。・簡易なものでもよいので、整理後、HP など調査成果についての報告を行うことが望ましい。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 7 真慈悲寺調査事業
事業の概要 <p>市民ボランティアとともに、真慈悲寺および百草・倉沢地区の調査・研究、普及、関連施設の整備等を実施している。</p> <p>令和元年度の主な実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・東京電力総合研修センター内実踏調査 2 回。・学びの場プロジェクト「初夏の真慈悲寺と百草画荘」現地ガイド 7.20・東京文化財ウィーク国指定重要文化財「阿弥陀如来坐像」公開事業 9.15・第 14 回真慈悲寺現地イベント特別講演「古代中世の武蔵真慈悲寺と近世の松連寺への歴史」峰岸純夫 9.15・市民大学「日野の知られざる真慈悲寺」郷土資料館学芸員 11.19・百草八幡神社と京王百草園周辺を中心に 13 か所に QR コードによる解説ポイントを設置・ホテルの里公有化記念植樹祭講演「新堂が谷戸の歴史的背景について」3.1・解説パネル展示を百草図書館・郷土資料館・京王百草園などで 5 回実施	
事業の成果 <ul style="list-style-type: none">・将来の発掘調査に備え、新たに発見された平場の基礎資料収集を目的に、東京電力総合研修センター内実踏を行い、地表下 80 cm ほどのところに広い造成地の可能性がある。(4.27 5.11)<ul style="list-style-type: none">・ボランティアの協力により、QR コードを八幡神社・京王百草園内の 13 か所に設置できたことは大きな成果であった。現地の各所に設置された QR コードをスマートフォンで読み込むと、写真つき解説文が表示され、より詳しい情報を知ることができる。期間限定のパネル展示や対面での解説ガイドとは異なり、現地で自分のペースでビジュアルな解説を見ることができる QR コードは低予算での普及活動の強力な武器となっている。・平成 28 年、当館主催の真慈悲寺特別展に百草八幡神社所蔵の国指定重要文化財「阿弥陀如来坐像」を借用展示した。その際に実施された学術調査の結果が、青山学院大学名誉教授浅井和春氏によって報告された(『東国の仏像』「仏像の表象機能に関わる総合的研究—空間・荘厳・胎内に着目して—」科学研究費補助金基盤研究(4)研究成果報告書 令和 2 年 3 月)。	
協議会の意見 <ul style="list-style-type: none">・既存の看板に更なる情報を追加できるので、新たに看板を設置することなく、簡便に経費もかからない。今読み込むと PDF がでてくるが、もしそこに資料館の HP へのリンクや、イベントの告知も一緒にのせるとまた広がるのでは。ほかの場所やハイキングコースの紹介もできるのではないか。・活動を支える市民の高齢化もあり、大学との連携で学生がはいつてくるのが期待できる。・歴史的価値が高いが、市民の認識は不十分である。市民、他県へ発信したい遺跡である。・QR コードによる解説の開始は大きな成果であり、さらに内容の充実させること。・ボランティアと近隣大学との連携・調査体制の整備が緊急課題である。・勝五郎調査団が実施しているような小中学生向けの現地講座は是非実現させ、子どもたちがわかるように伝えて欲しい。	
課題と改善策 <ul style="list-style-type: none">・QR コードを設置したが、その直後に新型コロナウイルス感染症対策による外出制限が長く続いており、その利用状況を把握できていない。今後は、利用状況の解析もしながら、さらに対象地域や内容を充実させていく。また、親しみやすい情報提供の工夫など発展していきたい。・これからは大人数対象に対面での普及活動は難しくなると予想される。各機関の HP の積極的な活用等を検討していく。・発掘調査の予算措置の厳しい折、新たに確認された東電敷地内の平場やホテルの里内に発見された集石遺構などの調査を近隣大学の研究機関とも連携して継続調査できるように体制を整えていきたい。・子どもにも説明できるように、教科書の用語を使用するなど工夫する。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目

No. 8 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信事業

事業の概要

- ・平成 18 年度から、地元につながる生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行なっている。令和元年度の総活動数 17 回・総参加者 457 人、内調査団 214 人。3 月例会と春休み子ども講座は新型コロナウイルス感染症の流行のため休止した。
- ・調査・研究事業：勝五郎子孫調査の一環として、勝五郎の妹つねの孫（故人）の消息がわかり、群馬県館林市において、菩提寺や関係者の聞き取り調査などをおこなった。当人が亡くなっていたため詳しい調査は出来なかったが、函館から館林へ移住したという以前の聞き取り調査の確認が出来たので、函館調査で得られた情報が、つねの一家のものであることの確認が得られた。
- ・普及事業：公開講演会（5 月 19 日 種市孝氏「生まれ変わりを科学する」）、第 11 回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日イベントの開催（10 月 6 日 松村恒氏「異なる時間の体系から勝五郎の再生を再考する」）などを実施。

事業の成果

- ・令和元年度の記念碑建立により、藤蔵墓地とともに見学者が増え、普及活動が一層充実した。
- ・4 月、日蓮宗現代宗教研究所（池上本門寺内）の方が来られ、現地見学と調査団のメンバーとの交流会を持った。若い僧侶の方 1 名が、調査団のメンバーとなってくれた。
- ・平成 31 年 3 月、八王子市東中野の勝五郎生家跡に案内板が建てられたことがきっかけとなり、中央大学文学部哲学科の基礎演習講座（1 年生）のなかで、現地見学が実施され（9 月）、案内をおこなった。あまり地元を歩くことのない学生に、勝五郎生まれ変わり物語への興味を持ってもらうことが出来た。
- ・記念日イベントでは、今年も調査団のメンバーである松村恒氏（小泉八雲並びに梵文学研究者）に講師を依頼し、「時空空間」という今までとは異なる側面から勝五郎生まれ変わり物語を検証するというユニークな講演会を提供することができた。
- ・11 月、勝五郎妹つねが暮らしていた府中市四ツ谷の見学会を実施し、近くであるが行ったことのない地域を精査し、地元の人たちとの交流を持つことが出来て有意義だった。
- ・淑徳大学「祈りの姿—交流する死者と生者」展・明星大学図書館貴重書コレクション展—小泉八雲 日野の「ほどくぼ小僧」と青梅の「雪おんな」に資料を提供した。
- ・調査団メンバーの今井秀和氏が、『異世界と転生の江戸—平田篤胤と松浦静山—』を刊行し、勝五郎調査団の活動を紹介した。

協議会の意見

- ・いろいろな方面の人が関心を持ち参加するとまた新しい連携や協力ができるのではないかと。
- ・大学生や他市との連携ができればよい。新選組歴史館とも展示を連携して協力できればよい。
- ・調査団の普及・啓発活動・追究意欲から、研究調査が無限の広がりや深まりを見せ、市民に夢をもたせている。
- ・誤解している市民もいる。引き続き、普及・啓発事業の推進が必要である。
- ・八王子市や中央大学との連携関係ができつつあるので、さらに八王子市・大学との合同特別展の実施まで発展させていきたい。
- ・調査団の高齢化対策として、広報等でボランティアを募集し、中央大学・明星大学にも働きかけて、メンバーの若返りを図ってほしい。

課題と改善策

- ・調査団メンバーの高齢化に伴い、活動可能な人材の減少が一層深刻な問題となっている。しかし、調査団の存在は、「生まれ変わり」という特殊なテーマを扱っているあまり類を見ない集まりであるので、全国各地からの情報を集約する場としても意義があるとの見解が、総会で確認された。持続可能な活動についての検討が課題となる。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、予定していた活動が出来なくなった。例会を休むのも、10 年以上続いている子ども講座を中止するのも、初めての経験であり、しばらくこの状況は続くかもしれないが、事業の見直しをする良い機会と捉えて、前向きに活動を進めていきたい。
- ・報告書・ブックレットが残部僅少となっているが、好評で需要が多いので、新しい成果を盛り込んだ改訂版の刊行を準備している。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 9 七生丘陵の自然と歴史調査事業
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えていく。七生丘陵調査団の市民メンバーで積極的に活動した。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自主的に興味をもったテーマを設定し資料館と連携して調査を行ってきた。生涯学習の機会を提供した。また市民目線で、自ら調査したことや発見したことの面白さや魅力を実感を込めて伝えることができた。自然班、歴史班とそれぞれのもつ興味で班を分けての活動もあった。調査団員の野外活動・例会など 42 回、延べ 224 人。 ・丘陵散策コースを中心に動植物の写真を撮影し記録した ・散策コースなど昔の写真などに写る情報について調査した。 ・多摩平の森ふれあい館において、パネル展「七生村の自然を今に伝える多摩動物公園」を開催した。 ・「多摩川の市境を歩こう」を多摩川の市境を歩こう開催のため、立川柴崎町あたりから多摩市一之宮周辺にかけてのコース設定や史跡や橋や日野市との境界について実地調査を行っていたが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止となった。 ・七生丘陵散策コースガイドブックの原稿作成を行った。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・調査団の活動紹介が可能ではないか。ほかの自然保護活動団体の会報や、イベントなどを利用し、調査団の活動を紹介したり、会同志で連携したりするのがよいのではないか。 ・学校で出かけられるところを探して実地に行く。旭が丘からも市内見学しながら丘陵へは行ける。南平丘陵公園は、池に水はなく吊り橋は閉鎖、遊具も撤去され子供たちが自然に親しめる場所がなくなってしまう。七生公園は整備されているのだろうか。歩いていける場所で自然や歴史を語れると面白い。活用できるように整備された場所が必要である。 ・大人も遠方へ行けなくなり、近所の散歩は可能なので、七生丘陵のハイキングコースが気軽に歩けるように整備して欲しい。課を超えた連携をして、身近なハイキングコースを市民に知らせてもらって欲しい。危険な部分は急いで整備をして欲しい。 ・高尾山も込み合って密です。七生丘陵の方がコストもかからず、地域の歴史もわかるのでよいところである。 ・感染症対策の折、身近な地域で自然を満喫できるハイキングコースの整備が重要である。さらに、解説版・トイレの設置等の整備を進めてほしい。 ・高幡不動駅で実施したような、駅・公共施設でのパネル展は、毎年継続して欲しい。 ・「七生丘陵散策コースガイドブック」は、早く市民・学校・公民館等に配布して欲しい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・調査団の高齢化もあり参加者数が減少傾向にある。役員も世代交代の時期となっている。また、野外活動での安全対策や、屋外活動時間の短縮など無理のない計画が必要となる。 ・調査団のメンバーが無理なく参加できる方法を提示し、調査団活動を維持し、外出自粛時にも対応できる方法を試行する。 ・七生丘陵散策コースガイドブックを公開活用する方法を検討する。 ・調査情報は蓄積・保管するだけでなく、展示など発信手段も考えて成果をまとめていく。 ・七生丘陵調査団のメンバーがもつ能力を生かし、見学会や勉強会などで広く市民へと伝えていく。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、活動が制約される。パネル展示会場となった多摩平の森ふれあい館では、図書館・貸室の臨時休止の影響で多くの見学者が望めなかったため、再度展示の機会をつくる。

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 10 たきびの詩人「異聖歌」啓発事業
事業の概要 <ul style="list-style-type: none">・日野市で後半生を過ごした詩人・児童文学者の異聖歌について、日野市に寄贈されている資料の調査・研究・保存を図るとともに、異聖歌とその作品についての普及活動を行うことを目的としている。異聖歌の出身地岩手県紫波郡紫波町・新美南吉の出身地愛知県半田市・童謡「たきび」の舞台となった中野区上高田の鈴木家などとの交流を行ってきたが、これらの市民交流の成果として、平成29年1月紫波町との姉妹都市盟約が締結され、さらに交流が盛んになっている。・令和元年度の主な活動としては、①令和元年5月教育センター内に、「異聖歌資料室」が設けられ、資料保管と展示に活用できることになった。(令和元年5月開設) ②9月13日～15日大阪国際児童文学館(東大阪市)にて、異聖歌関係資料調査実施。③11月1日 紫波町副町長視察案内(たきび詩碑) ④たきび祭前夜祭(12月6日)「異聖歌と安倍季雄」－異聖歌処女作「山羊と善兵衛の死」朗読(60人)、本祭(同7日)第14回たきび祭 500人(郷土資料館関係) ⑤『たきびの詩人異聖歌資料集1－野村七蔵から異聖歌へ』刊行(A4判120ページ 700部) ⑥異聖歌学校展示用パネル(A2 18枚)作成 ⑦『まんが世界と日本の人物伝100』4不朽の名作を書いた人たち「新美南吉」に異聖歌の肖像写真提供(富士山みえる作 偕成社)などがあげられる。	
事業の成果 <ul style="list-style-type: none">・私的な調査であるが、大阪国際児童文学館に調査に行ったことで、異聖歌の10代の活動のほぼ全容を明らかにすることが出来た。これまでタイトルしか知られていなかった処女作「山羊と善兵衛の死」(童話)の全文のコピーを入手することができ、資料集の刊行に活かすことが出来た。・刊行した資料集は、10代から20代前半の活動を明らかにすることを目的とし、『少年』『少女』に掲載された童話作品と大正13・14年、昭和4・8・9年の日記の全文を翻刻した。また、異聖歌の最初の童話集『雪と驢馬』に寄せられた北原白秋序文の自筆原稿を公開した。	
協議会の意見 <ul style="list-style-type: none">・膨大な資料を整理して、資料集もできてありがたいです。・郷土資料館だけでなく、市の方針はどのようになっているのか。イベントを行って、まちおこしとして活用したいということと、膨大な資料は郷土資料館でということなのか。・異聖歌資料室が設けられ、見学すると今後の異聖歌の資料を今後日野市としてどのようにしていったらよいか、よいアイデアがでるのではないかと。・姉妹都市となった岩手県紫波町との交流が進み、市民・学校の関心が高まっている。「たきび祭」が盛り上がり、日野市の重点課題となっている。・「日野市の異聖歌」というイメージを他市へも発信したい。・郷土資料館、旭が丘地区センターを拠点に資料整理・調査研究・啓発PRに努めてほしい。市の重点であるならば、予算措置を取り、専任の学芸員(職員)を配置してほしい。	
課題と改善策 <ul style="list-style-type: none">・異聖歌の資料整理事業は、平成10年から行っており、22年目を迎えた。継続することにより、地元や紫波町などとの連携が進み、様々な成果が上がっている。・関心が高まる中、資料活用ができるようにすることが必要であるが、資料の整理、調査・研究ということについては、他の多くの事業の一部としての時間しか割くことができず、遅々として進んでいないのが現状である。調査の過程で遠方に関連する資料があることがわかり、調査が必要な場合もあるが、人手も予算措置もほとんどない。・姉妹都市となった紫波町とは産業や学校教育分野で交流が行われており、市の交流担当部署と連絡調整をするとともに、郷土資料館として資料整理の目標や計画を設定し、具体的に資料整理が進む体制を構築する。	

日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No. 11 資料館講座・体験学習事業
事業の概要	郷土の歴史や自然などを、より深く学ぶために講座や体験をともなう学習会を開催する。 No.10までの事業として取り上げていない講座・事業を No.11 では評価対象とする。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新選組のふるさと歴史館と共催「昔の薬を作ろう（石田散薬作り）」（17人参加）。 ・糸取り体験（公民館ゆるカフェ）一中アクションプラン蚕班共催（10人参加）。 ・「正月飾りを作ろう」（27人参加）。 ・どんど焼きは、昨年度より参加者が減ったが（480人参加）、繭玉団子づくり体験者が増加した。 ・「生涯学習学びの場プロジェクト」教育委員会発行の冊子『歩こう・調べよう・ふるさと七生』を活用し、郷土資料館・中央公民館・図書館・新選組のふるさと歴史館・生涯学習課が協力し、春編「ほどくぼ小僧」と「かくれ穴」、夏編「初夏の真慈悲寺と百草画荘」、秋編「高幡界限—今・昔」、晩秋編「平山季重と平山遺跡」全4回実施した（合計92人参加）。小学生向けに書かれた冊子は、大人にもわかりやすく興味深いくと感想を得た。現地を歩き、参加者自らが「考え」、「語る」という双方向的な学びを目指し、回を追う毎に参加型見学会になっていったと思う。 ・日野駅130年日野の近代化遺産～煉瓦・ビール・養蚕～（生涯学習課・新選組のふるさと歴史館と共催）（83人参加）日野の近代化について、現地見学会と日野桑園第一蚕室についての講演会を併せた充実した1日を提供でき、参加者に楽しんでもらえた。 ・「化石でたどる大昔の日野」は新型コロナウイルス感染症予防のため中止。
協議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・冊子『歩こう 調べよう ふるさと七生』は25項目の見開き開きで完結する。3～6年生に配布した。内容が濃くなり、難しくもなってしまった。子ども向けには、各学年に合わせて先生がかみくだいて授業に使う必要がある。大人にも関心をもってもらって、このように発展したのはうれしいことだ。 ・『歩こう 調べよう ふるさと七生』の冊子、リーフレット化しての販売はあるのだろうか。 ・旭が丘小でいうと異聖歌の住んでいた場所、旭が丘地域は昔こんな場所だった、今は工業団地、スーパーがあったり大学があったり、そういうところを先生方が面白がってくれると、子どもたちが興味をもってくれる。 ・学校現場では、活用方法が多様である。配布の遅いクラスもあれば、読書の時間に読んで質問に来る児童もいる。教師が地域の変遷などに興味関心をもってくれると子どもたちも興味をもつ。自由研究の題材に勧めた学校もあった。 ・市民のニーズに合った講座や体験学習は、大変な人気であった。学んだ後、現地を歩きよくわかった、読めなかった古文書が読めるようになった等、好評であった。 ・市教委発行「歩こう 調べよう ふるさと七生」を活用しての現地講座は、市教委内の連携プレーが機能し、市民は熱心に学んでいた。教育センターを含めた1課5館による現地体験講座は、今後の郷土資料館事業の在り方のモデルであると考えている。 ・感染症対策で中止の講座が多かったが、できる限り延期の方向で検討してほしい。
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防のため、2月末以降の行事が中止となった。新たな生活スタイルにあわせた、講座の開催方法や情報発信を行う必要がある。 ・一年で終わるのではなく、毎年テーマを変えて今後も取り組んでいきたい。 ・これからも関連各課との共催事業を展開し、協力し合って日野の歴史や文化・自然といった文化的資産を市民に伝え続けていきたい。

<参考資料>

I 令和元年度 日野市郷土資料館の活動状況

1 郷土資料館協議会

日野市郷土資料館協議会は、博物館法に基づき、資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。また、日野市郷土資料館条例に、協議会委員は教育委員会が任命し、委員の定数は10名以内となっている。なお、委員の任期は2年となっている。

(1) 協議会委員名簿 第7期委員

氏名	主な活動分野
◎小杉 博司	社会教育の関係者（郷土教育研究）
○平 自由	社会教育の関係者（考古学・博物館学）
畠山 豊	社会教育の関係者（民俗学・博物館学）
保坂 一房	学識経験者（多摩の地域史研究）
佐藤 福子	学識経験者（歴史・古文書研究）
片山 敦	学識経験者（生物・環境教育）
猿田 恵一	学校教育の関係者（旭が丘小学校校長）
高橋 清吾（H31.4.1 から）	学校教育の関係者（日野第一中学校校長）
中村 高志	公募市民
西山 千絵	公募市民

◎委員長 ○副委員長 任期 平成30年3月4日～令和2年3月3日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7.2	郷土資料館	1 はじめに ①協議会委員の紹介 ②職員紹介 2 報告事項 令和元年度事業の進捗状況と今後の予定 3 協議事項 運営の状況に関する評価（平成30年度事業） 4 見学 企画展「四季の植物」見学
11.29	日野市役所	1 報告事項 ①平成30年度事業評価について ②令和元年度事業の進捗状況と今後の予定 2 協議事項

開催日	会 場	協 議 内 容
		令和 2 年度の事業計画（特別展示等） 3 見学 特別展「豊田のむかし」
2.20	郷土資料館	1 報告事項 令和元年度事業の進捗状況と今後の予定 郷土資料館協議会委員第 7 期の終了と第 8 期 2 協議事項 令和 2 年度の事業計画 3 見学 企画展「ひの宝モノ語り展」

2 古文書等歴史資料整理編集委員会

日野市古文書等歴史資料整理編集委員会は、市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的に、古文書等歴史資料を調査するため設置されている。

委員会の委員は、古文書等歴史資料に対して優れた見識を有する者の内から教育委員会が選任し、定数は 6 名以内、任期は 2 年となっている。

(1) 委員名簿

第 11 期委員

氏 名	専 門 分 野
多田 仁一	近世史
馬場 憲一	近世史
安藤 陽子	近代史
清水 守男	近現代史
鈴木 淳世	近世史
保坂 一房	近現代史

第 11 期任期 平成 31 年 2 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
6.18	郷土資料館	1. 令和元年度の資料調査事業について ①南平 T 家旧蔵資料の調査 ②下田 O 家文書の資料調査（継続） ③東光寺 T 家文書調査のまとめ ④川辺堀之内 M 家文書調査のまとめ ⑤異聖歌資料の整理・資料集の刊行 ⑥新井 H 家文書の調査 ⑦古文書講座の開催 ⑧行政関係資料の保存と整理についての現状調査 ⑨マイクロフィルムのデータ化事業 ⑩その他 2. 平成 30 年度事業の報告 ①マイクロフィルムのデータ化 ②豊田 Y 家文書の撮影・解説・ガラス乾板写真展 ③川辺堀之内 M 家文書・日野本町 H 家文書の撮影 ④資料修復（「平山村田畑反別取調野帳」） ⑤その他 3. 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 4. その他 特別展「豊田のむかし」開催について
10.8	郷土資料館	1. 令和元年度進行中の資料調査事業について ①南平 T 家旧蔵資料の調査 ②川辺堀之内 M 家文書調査のまとめ ③異聖歌資料の整理・資料集の刊行 ④その他 2. 特別展「豊田のむかし」開催と関連資料調査について 3. 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 4. その他 会議終了後、特別展「豊田のむかし」案内
(3.5)	郷土資料館	新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催中止となった。

3 展示事業

(1) 企画展示

企画展名	展示期間	観覧者数
四季の植物	4.20～7.7	365
どっき土器展 2019「大昔の多摩平」	7.13～11.10	571
ひの宝モノ語り展～くらしの工夫に光をあてる～	11.16～3.3	422

企画展名	展示期間	観覧者数
パネル展「富士山と日野」	4.20～7.19	—
パネル展「明日に伝える戦争体験」	7.20～9.6	—
パネル展「百草倉沢地区の歴史を楽しむ」	9.7～12.6	—
パネル展「日野市内のサイノカミ・どんど焼き」	12.7～3.3	—
合 計		1,358

(2) 施設見学

① 学校等

月 日	学校名等	対 象	内 容	人数
5. 23	わかば教室	小学生	カイク観察	8
5. 24	教育支援課	生徒・保護者	展示見学	3
5. 30	わかば教室	小学生	カイク観察	7
6. 13	わかば教室	小学生	カイク観察	7
6. 20	三沢中学校	2年	職場体験	5
6. 21	三沢中学校	2年	職場体験	5
7. 11	平山中学校	1年	総合学習 フィールドワーク	23
8. 31	日野第一中学校	報道部	日野郷土クイズ作成取材	4
9. 6	仲田小学校	3年	農具体験・昔の暮らし	68
9. 17	わかば教室	小学生	糸取り体験	10
9. 25	日野第四中学校	2年	職場体験	6
10. 11	豊田小学校	3年	昔の暮らし	138
10. 24	羽村第一中学校	1年	校外学習 地域学習	18
10. 29	夢が丘小学童クラブ	小学生	展示見学ハロウィンイベント	59
10. 3	日野第一小学校	3年	社会科見学・農具体験	78
11. 1	日野第一中学校	1年	地域学習 (巽聖歌)	6
11. 8	七生中学校	1年	総合学習 フィールドワーク	7
11. 21	大坂上中学校	1年	地域学習 施設訪問	13
11. 22	夢が丘小学校	3年	特別展見学(豊田のむかし)	71
11. 22	日野第四小学校	3年	農具体験・昔の暮らし	132
11. 26	東光寺小学校	3年	農具体験・昔の暮らし	55
12. 12	わかば教室	小学生	平山陸稲の脱穀と試食	10
1. 24	帝京大学小学校	3年	昔の暮らし	50
1. 31	日野第三小学校	3年	昔の暮らし	77
2. 4	日野第五小学校	3年	昔の暮らし	117
2. 7	青梅市立新町中学校	1年	校外学習	19
合 計	26 件			996

② 団体

月 日	団体名	内 容	人数
5.23	浜松唱歌と童謡を愛する会	旭が丘中央公園の巽聖歌の碑、巽聖歌の資料室の見学	23
6.28	セブカルチャークラブ	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	11
7.30	通所支援ベルテール八王子大塚園 (放課後デイサービス)	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	6
8.31	特別養護老人ホーム 花子 デイサービス	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	7
11.6～7	ライズデイサービス	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	8
11.20	東京都公民館連絡協議会職員部会	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	10
11.26	健康課ウォーキング	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	37
12.15	久喜市歩こう会	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	61
1.24	八王子「古事記・風土記クラブ」	真慈悲寺調査センターの見学	92
2.14	多摩の歴史を散策する会	企画展、民俗・自然収蔵展示室の見学	16
合計	10 件		271

(3) 特別展「豊田のむかし」

① 観覧者数

会 期	会 場	観覧者数
10.5 ～ 12.8	新選組のふるさと歴史館	4,452

② 特別展関連行事

月 日	名 称	人数
10.8	記念式典	39
11.9	講演会「豊田の地形と地名」 講師：今尾恵介	70
11.17	講演会「草創期の地方ビールと山口麦酒」 講師：牛米努	34
11.30	見学会「豊田の七森を探る」 講師：上野さだ子	26
合 計	4 回	169

4 イベント

事業名	月日	会場	一般参加数	行政関係人数	計
たきび祭(前夜祭ほか)	12.6~7	旭が丘中央公園	560	9	569
どんど焼き	1.19	郷土資料館	472	8	480
合計	2件				1,049

5 教育普及事業

(1) 体験学習会

① その他

月日	内容	講師	会場	人数
7.27	昔の薬を作ろう (石田散薬作り)	郷土資料館 新選組のふるさと歴史館	土方歳三資料館 郷土資料館	17
8.23	マイ勾玉を作ろう	郷土資料館	郷土資料館	22
11.21	糸取り体験(公民館ゆるカフェ)	一中アクション プラン蚕班共催	中央公民館	10
12.21	お正月飾りを作ろう	わらぞうり保存会	郷土資料館	27
2.29	みんなであそぼう! ジュズダマお 手玉&竹とんぼ(中止)			
3.14	化石でたどる大昔の日野(中止)			
合計	4回			76

※昔の薬を作ろう：新選組のふるさと歴史館との共催事業

※2月3月は新型コロナウイルス感染症対応のため中止

※石田散薬を作ろう：新選組のふるさと歴史館との共催事業。

(2) 講座

月日	内容	講師	会場	人数
2.2	豊田の古文書を読んでみよう 第1回	上野さだ子	郷土資料館	28
2.9	豊田の古文書を読んでみよう 第2回	上野さだ子	郷土資料館	25
2.16	豊田の古文書を読んでみよう 第3回	上野さだ子	郷土資料館	26
合計	第4回~第6回は新型コロナウイルス感染症対応のため中止			79

※調査事業による講座については、各事業欄に記載。

(3) 出張事業（展示及び講師派遣）

① 学校等へ出張授業

月日	学校名	対 象	内 容	人 数
4.25	東光寺小学校	6年	火起こし体験	89
5.30	日野第三小学校	6年	火起こし体験	62
10.19	滝合小学校	4年	防災教室（学校公開）	90
10.23	平山小学校	3年	防災移動教室 昔の暮らし・地形	96
11.8	日野第八小学校	3年	昔の暮らし	128
11.20	日野第一小学校	3年	昔の暮らし	79
11.21	南平小学校	3年	昔の暮らし	87
1.17	豊田小学校	3年	昔の暮らし	136
1.22	七生緑小学校	3年	昔の暮らし	68
1.23	日野第六小学校	3年	昔の暮らし	132
1.30	平山小学校	3年	昔の暮らし	91
2.7	夢が丘小学校	3年	暮らしの移り変わり	70
2.12	潤徳小学校	3年	昔の暮らし（学校公開）	169
合 計			13件	1,297

② その他

月 日	内 容	会 場	人 数
6.8	水車まつりパネル展示	向島用水水車小屋	80
6.15	学びの場プロジェクト春編～「ほどくぼ小僧」と「かくれ穴」	高幡図書館・現地	20
7.20	学びの場プロジェクト夏編～「初夏の真慈悲寺と百草画荘」	百草図書館・現地	21
9.7	水と緑の日野ネットワークシンポジウム （絵図でたどる日野市域の景観）	かわせみハウス	80
9.11	日野自動車永輝会講演会（日野用水・日野宿・新選組）	日野自動車（株）	19

10.19	学びの場プロジェクト秋編～「高幡界限—今・昔」	高幡図書館・現地	23
11.9	学びの場プロジェクト晩秋～「平山季重と平山遺跡」	平山図書館・現地	68
11.19	日野自動車永輝会現地散策（東光寺～日野宮神社～日野宿本陣）	現地	26
2.8	日野駅 130 年 日野の近代化遺産～煉瓦・ビール・養蚕～（現地見学会と講座）（生涯学習課・新選組のふるさと歴史館と共催）	現地、市民の森ふれあいホール	83
合計	9 件		420

(4) レファレンス事業

項目	件数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問に対する調査回答	120

6 所蔵資料活用事業

(1) 資料のデータ化事業

項目	内容
マイクロフィルムのデジタルデータ化及び 目録作成作業	16mmマイクロフィルム 35,000 コマ

(2) 資料の貸出事業

貸出先	資料	目的
桜美林大学 1 件	千歯抜き	博物館実習（資料収集・整理実習）
深澤紅子野の花美術館（盛岡市）	異聖歌絵本他	展示
小学校、児童館、公民館、教育センターほか 6 件	地層標本、火起こし道具、糸車、千歯抜きなど脱穀農具、糸車ほか	理科・総合学習・国語授業、脱穀などの体験学習
地域協働課、高齢者施設 2 件	座繰器、写真パネル	地域懇談会ミニ展示、施設内夏祭りパネル展
件数	10	

(3) 資料の撮影・閲覧 概要

資料内容	目的
【資料写真の提供】 武蔵名勝図会、高幡不動胎内文書、市域の古写真、古文書資料、巽聖歌肖像ほか	地域イベント・博物館・記念誌・研究書・新聞・調査研究
【資料の調整・閲覧】 七生拓務訓練所関係資料 日野市の公文書の保存について 童謡たさび、野村千春について	新聞社・記念館・団体ほか
件数	20

7 資料収集保存・調査事業

(1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈	土器・石器、七生村全図、豊田駅ジオラマ、糸車・箱枕、自転車ほか	10 件
資料購入・製作	キビタキ剥製製作	1 点
収集資料の整備ほか	民具の補修、農具体験及び脱穀体験の補助及び民具整理補助 (45 回)	88 人
資料修復	「平山村田畑反別其外取調野帳」(452～1054 番) その 3	1 点

(2) 調査事業

① 真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数
普及	現地イベント	9.15 特別講演『古代中世の武蔵真慈悲寺と近世の松連寺への歴史』講師：峰岸純夫	1	54
		9.15 解説ガイド・文化財ウィーク国指定重要文化財阿弥陀如来坐像の公開		114
		9.10～9.15 パネル展「真慈悲寺の歴史紹介」京王百草園	1	—
		イベント準備 (テント設営・パネル設置・清掃・撤収など)	4	38
	梅まつり	2.1～3.22 パネル展「百草の歴史を楽しむ一慈悲	1	—

		寺と青木角蔵の百草園― 京王百草園			
		2.4～3.19 パネル展「青木角蔵シリーズと芭蕉碑」 百草図書館	1	—	
		展示準備（パネル設置・解説看板清掃など）	3	31	
	講座・解説		7.20 学びの場プロジェクト「初夏の真慈悲寺と百草画荘」	1	42
			11.19 市民大学「日野の知られざる真慈悲寺」	1	36
			1.15 日野市健康ウォーキング団体「調査センター訪問解説」	1	53
			1.24 八王子「古事記・風土記クラブ」団体調査センター訪問解説	1	13
			3.1 ホタルの里公有化記念植樹祭講演「新堂が谷戸の歴史的背景について」	1	20
	QRコード	百草・倉沢周辺の歴史解説 QRコード制作・設置	10	81	
	展示	7.13～10.4 パネル展「真慈悲寺の紹介と発掘調査」百草図書館	1	—	
調査・研究	研究会	『松連寺八景・十二景・十八景』検討会	10	102	
		「大石五箇寄付」の石碑検討会	1	8	
		東京電力敷地内実踏調査	2	21	
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センター整備・看板設置・DVD制作・総会	8	66	
自主活動	真慈悲寺ボランティア自主活動	真慈悲寺調査ボランティアの自主活動歴史散策	2	11	
刊行物の発行等	印刷	真慈悲寺解説リーフレット改訂版 3,000部			
	DVD制作	「百草に慈岳山松連寺を開基した小田原藩大久保家夫人寿昌院」改訂			
	資料提供	「地図で読み解く京王線沿線」三オボックス			
合 計			54	749	

② 勝五郎生まれ変わり物語調査事業

項目	内容	人数
例会	毎月第二水曜日午後 (10回) 3月は中止	131
総会	5.19 郷土資料館	15
公開講演会	5.19 種市孝「生まれ変わりを科学する」郷土資料館	23
展示・講座	出張授業 (9.30 中央大学文学部哲学科哲学基礎演習—勝五郎の生誕地見学)	31
記念行事	10.6 第11回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会 「異なる時間の体系から勝五郎の再生を再考する」 講師：松村恒 会場：高幡不動尊	204
調査活動	勝五郎子孫に関する調査 (群馬県館林市ほか)	10
その他の活動	見学案内 (4.10 日蓮宗現代宗教研究所 3人) 資料提供 (6月 淑徳大学—「祈りの姿—交流する死者と生者展展示のため) (明星大学図書館貴重書コレクション展—小泉八雲日野の「ほどくぼ小僧」と青梅の「雪おんな」—子どもリーフレットとDVD) 見学会 (11.13 府中市四ツ谷 18人) 他	31
刊行物の発行	記念碑リーフレット 2,000部 こどもリーフレット 5,500部	
合計 (人数)		445

※3月実施予定だった春休み子ども講座は、新型コロナウイルス感染症対応のため中止

③ 七生丘陵調査事業

内容	回数	人数
定例会 (9回)・総会 (1回)	10	79
七生丘陵の屋外観察記録や資料整理活動	32	145
パネル展「七生村の自然を今に伝える多摩動物公園」(3.26~4.23) 会場：多摩平の森ふれあい館	1	-
体験講座「多摩川の市境を歩こう」(3.28) ※新型コロナウイルス感染症対応のため中止	-	-
合計	44	224

④ 古文書調査事業

ア 日野の古文書を読む会との協働

内 容	回 数	人 数
古文書整理（南平・T家文書）	16	98
古文書の解説（豊田 Y 家文書ほか）	38	428
編集会議	17	51
合 計	71	577

イ その他の調査事業

特別展に関連した豊田地区の資料調査及び資料撮影

日野宿 I 家文書、H 家文書、I 家文書

川辺堀之内 M 家文書の調査とデジタル撮影

T 家文書の撮影と整理、M 家文書の追加調査と撮影

⑤ 異聖歌関連事業

ア イベント・調査等

月 日	内 容
5 月	異聖歌資料室の整備
5.23	見学 浜松唱歌と童謡を愛する会（29 人来館）
9.13～15	資料調査 大阪府立中央図書館国際児童文学館（大阪府東大阪市）
10.20	諏訪市立美術館調査（野村千春関係）
12.6	たきび祭前夜祭 60 人来場 朗読とお話、歌のつどい、講演会「異聖歌と安倍季雄」
12.7	たきび祭（旭が丘中央公園） 500 人来場
12.25～26	異聖歌資料の撮影（ボランティア 1 人）
1.5～6	

イ 刊行物

内 容	部 数
『たきびの詩人異聖歌資料集 1 －野村七蔵から異聖歌へ－』	700 部（A4 判 120 頁）

⑥ その他

項目	内容
文化財緊急調査	日野本町日野家における古文書の記録撮影調査、東京オリンピック関連地図等の記録撮影調査、飯綱権現の整備に伴う現況記録保存調査
民俗調査	日野市域のサイノカミ・どんど焼き行事調査等

8 東京都博物館協議会・東京都三多摩公立博物館協議会

(1) 東京都博物館協議会

①第1回総会及び見学研修会

令和元年7月31日

会場：東京都江戸東京博物館

① 第2回総会及び見学研修会

令和2年1月29日

会場：東京都江戸東京博物館

(2) 東京都三多摩公立博物館協議会

①定期総会

令和元年5月29日 会場：府中市郷土の森博物館

②協議会

令和元年11月21日 会場：町田市民文学館ことばらんど

③研修会

第1回 令和元年9月19日 会場：東京都立埋蔵文化財調査センター

「写真資料の取り扱い～整理を中心に～」報告

第2回 令和元年12月10日 会場：パルテノン多摩

2020年東京オリンピックと図書・博物館—資料活用と地域での取り組みから—

<参考資料>

II 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

Ⅲ 日野市郷土資料館協議会委員名簿 (第7期および8期)

番号	氏名	備考	期
1	小杉博司 (委員長)	社会教育の関係者 (郷土教育研究)	3
2	平 自由 (副委員長)	社会教育の関係者 (博物館学・考古学)	2
3	畠山 豊	社会教育の関係者 (博物館学・民俗学)	2
4	保坂一房	学識経験者 (多摩の地域史研究)	2
5	佐藤福子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	1
6	片山 敦	学識経験者 (生物・環境教育)	1
7	猿田恵一	学校教育の関係者(旭が丘小学校校長) (任期 平成30年4月1日から)	1
8	高橋清吾	学校教育の関係者(日野第一中学校校長) (任期 平成31年4月1日から)	1
9	中村高志	公募市民	1
10	西山千絵	公募市民	1

任期 第7期 平成30年3月4日～令和2年3月3日
 第8期 令和2年3月4日～令和4年3月3日

令和2年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(令和元年度事業)

令和2年9月

日野市郷土資料館

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915